

汉日语趋近移动表现的比较研究

“趋近移动表现”における中日比較研究

(要旨)

高 金旺

空間認知というテーマは認知科学・心理学などの分野においても最近注目されている。言語研究の側面からいえば、あらゆる動作動詞は空間・場所との関連を有する。そしてその下位類である移動動詞についてはとりわけそうした要素との結び付きが強い。これに加え、必ずしも言語化されとは限らない移動の速度・様態・距離・時間・方向などがその背景に存在している。このことはとりわけ中国語では、発話者自らを当該表現の中に導入する要素である“来/去”が往々にして必要となることから窺える。

現代中国語の空間移動を表す形式が多種多様だと言っても過言ではないが、本論文は「趋近移动表现」について考察し、日本語との比較も含めて研究した。中国語では「趋近移动表现」に使われる形式は数が限られているが、本論文では7つ選んだ。それは“上来、下来、进来、出来、过来、回来、起来”である。それらの“移動義”と“非移動義”の2つの側面を考察して、中国語の“V+X 来”に相当する日本語の表現を比較対照し、両言語の共通点と相違点についても指摘した。

我々をとりまく日常の事象を認識する際に、動的なものと静的なものに大きく区分できる。移動とは動的な現象であるが、空間移動表現とは移動事象に関わる要素もさまざまあり、そして、発話者の判断・認識と各言語で個別の制約を有する文法形式にも影響を受けることがある。中日両国語の“趋近移动表现”におけるそれらの相違をはっきりして身に付けることは中国語を学習する日本語母語者（或いは日本語を学習する中国語母語者）にとって容易ではないことといえよう。本研究では先行研究を踏まえて、“趋近移动表现”のメカニズムを解明した。また、第二言語の学習内容として正しく理解し、運用できることを目的とする。

本論文は8章により構成される。

はじめに、本論の研究対象・研究目的と意義・研究方法などを述べている。

第一章では、“V 上来”と共起するVの語義特徴と“上来”の語義特徴を詳しく考察した上で、“V 上来”の文型もまとめてみた。其々が以下のようなものである。

- (1) 低い所から高い所への線性自主自移。
- (2) 低い所から高い所への方式自主自移。
- (3) 低い所から高い所への非自主自移。
- (4) 低い所から高い所への使役移動。
- (5) 低い所から高い所への同動他移。

…

第二章では、“V 下来”と共起するVの語義特徴と“下来”の語義特徴を詳しく考察し

た上で、“V 下来”の文型もまとめてみた。其々が以下のものである。

- (1) 高い所から低い所への自主自移。
- (2) 高い所から低い所への非自主自移。
- (3) 高い所から低い所への使役移動。
- (4) 高い所から低い所への同動他移。
- (5) 高い所から低い所への非同動他移。

…

第三章では、“V 进来”と共起する V の語義特徴と“进来”の語義特徴を詳しく考察した上で、“V 进来”の文型もまとめてみた。其々が以下のものである。

- (1) 外から内への線性自主自移。
- (2) 外から内への方式自主自移。
- (3) 外から内への使役移動。
- (4) 外から内への同動他移。
- (5) 外から内への非同動他移。

…

第四章では、“V 出来”と共起する V の語義特徴と“出来”の語義特徴を詳しく考察した上で、“V 出来”の文型もまとめてみた。其々が以下のものである。

- (1) 内から外への線性自主自移。
- (2) 内から外への方式自主自移。
- (3) 内から外への非自主自移。
- (4) 内から外への使役移動。
- (5) 内から外への同動他移。

…

第五章では、“V 过来”と共起する V の語義特徴と“过来”の語義特徴を詳しく考察した上で、“V 过来”の文型もまとめてみた。其々が以下のものである。

- (1) 限界を超える線性自主自移。
- (2) 限界を超える方式自主自移。
- (3) 限界を超える非自主自移。
- (4) 限界を超える使役移動。
- (5) 限界を超える同動他移。

…

第六章では、“V 回来”と共起する V の語義特徴と“回来”の語義特徴を詳しく考察した上で、“V 回来”の文型もまとめてみた。其々が以下のものである。

- (1) 原点への線性自主自移。
- (2) 原点への方式自主自移。

- (3) 原点への使役移動。
- (4) 原点への同動他移。
- (5) 原点への借中他移。

…

第七章では、“V 起来”と共起する V の語義特徴と“起来”の語義特徴を詳しく考察した上で、“V 起来”の文型もまとめてみた。其々が以下のようなものである。

- (1) 下から上への線性自移。
- (2) 下から上への方式自主自移。
- (3) 下から上への非同動他移。

…

第八章は結論であり、各章で得た結果を踏まえ、主な結論をまとめた。その初歩的な結論は以下のようなものである。

(一) 本論では初めて“趨近移動”の概念を提出して、しかも“趨近移動表現”について詳細的に考察した。

(二) 移動体の違いにより、“趨近移動”を“自移趨近”と“他移趨近”に分けられる；移動の中間経路の違いにより、垂直方向の趨近移動と水平方向の趨近移動に分けられる；移動体自身は能動性があるかどうかにより、“自移趨近”を“自主移動趨近”と“非自主移動趨近”に分けられる。だから、“移動”自身も多様性を持っている。

(三) 中国語の“V+X 来”とはすべての形が7つあり、其々が“V 上来, V 下来, V 进来, V 出来, V 过来, V 回来, V 起来”である。その中で、“V 上来”と“V 下来”とペアできるし、“V 进来”と“V 出来”ともペアできる。だが、其々の語意はあまり対称ではない。“V 上来”は9つの意味を持っているが、9つの意味の中で1つの“非移動義”と1つの“横向趨近義”も含まれている；それに対して、“V 下来”も9つの意味を持っているが、9つの意味の中で3つの“非移動義”があり、“横向趨近義”がない。“V 进来”は7つの意味だけ持っているが；“V 出来”の意味は3つの“非移動義”を含めて全部11個もある。

(四) “V+X 来”の中で、ペアできないのは3つあり、“V 过来”“V 回来”“V 起来”である。“V 过来”とペアできるのは“V 过去”であるが、“V 过来”は“趨近移動”と表すに対して、“V 过去”は“向遠（離心）移動”と表す；“V 回来”とペアできるのは“V 回去”であるが、“V 回来”は“趨近移動”と表すに対して、“V 回去”は“向遠（離心）移動”と表す。

(五) 一つの移動過程と言っても、違った言語で表す時、其々は同じ所もあるし、違った所もある。

(六) 本研究では中国語の“趨近移動”のみ考察したが、それと対応する“向遠（離心）移動”は今後の研究課題として残されている。